



伊藤 春美 議員



公共交通サービスの充実を

問 路線バスやコミュニティバスの縮小により、デマンド交通で病院受診している方が多いが、診療や薬剤処方待ち時間がわからず、帰りはタクシーを利用することになり、金銭的に大きな負担になるとの声がある。このことについてどう考えるか。

答 令和4年度末までに地域公共交通計画を策定する予定であり、市民がより利用しやすく、持続可能な公共交通体系の構築実現のため、アンケート調査などを踏まえて改善に努める。



通院・買い物に便利「きらりんタクシー」

ペット同行の避難は可能か

問 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ペットを飼う人が増えているが、災害発生時にペット同行が可能な避難所はあるか。

答 地域防災計画では、生活場所と異なる場所にペット専用スペースを指定し、ルールを作成すると規定している。スペース的に限りはあるが、ペット同行での避難は可能。

子宮頸がんワクチンの周知を

問 日本では年間1万人近くの女性が子宮頸がんになり患っている。国は、予防できると言われているHPVワクチンの接種再開を示したが、本市における周知対象及び周知方法を伺う。

答 中学1年生から高校1年生になる女子に対しては、令和4年度に個別通知し、ワクチンや副反応に対する情報提供をしていく。

また、国では積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した平成9年度から17年度生まれの方に対し、キャッチアップ接種として接種を行うとしている。具体的な周知方法は示されていないが、必要な方が接種できるよう努める。

子どもの国保税均等割を無料に

問 子育て世帯への支援策として、国保税の均等割無料化を義務教育終了まで実施する必要があると思うが、市長の見解は。

答 法律で定められたとおり、まず未就学児に係る均等割5割軽減措置により対応していく。

学校給食費の無償化を

問 市長の選挙公約で掲げていた学校給食費の無償化を早く実施してもらいたい。どう考えているのか。

答 学校給食費の無償化は、まちづくりの方針として掲げた「豊かな旭を次世代へ」を実現するための政策として示した。本市ではおよそ4600人の児童・生徒がおり、年間約2億円の財源が必要となるため、財政及び経済状況に応じて慎重に検討していく。

デマンドタクシーの改善を

問 デマンドタクシーの乗降場所は、「共通乗降場所」以外に、住んでいる区域内の施設が対象で、利用できない場合があるが、何か対策は検討しているか。

答 少し外れた施設を対象にすると移動距離が長くなり、対応できないことが懸念される。令和4年度末までに「地域公共交通計画」を策定するにあたり、利便性の向上や財政負担等を考慮しつつ、乗降場所見直しなどのサービス内容の改善を検討をする。

中央病院の老人ホームについて

問 旭中央病院の老人ホームを廃止することだが、中央病院を創設した諸橋芳夫氏の遺稿集には「私は老人ホームなるものは病院に併設するのが一番よろしいと考え養護老人ホーム・ケアハウスなどを造った」とある。市長はどう考えているのか。

答 養護老人ホーム及び特別養護老人ホームの廃止は、今後の病院事業継続のために必要な判断であると考えている。

その他の質問事項

○公務災害と推測される自死事件
○農地の農振地域からの除外